

「女性の声を聴く101の会」開催

長島町では、女性の声を町政に反映させるため、8月4日「女性の声を聴く101の会」が開催され、地域づくりプランナー・男女共同参画政策アドバイザーの「たもつ ゆかり氏」を講師に迎え、「町への提言」という形で共通テーマをあげ、ブレインストーミング（集団でアイデアを出し合う）方式で、いろいろな意見が出され、今後の参考になりました。

★共通テーマ

1. 「物産館での特産品開発・販売」（A～Dグループ）
2. 「ぐるっと一周フラワーロード」（E～Hグループ）

「女性の声」を

町政に反映させよう



1. 「物産館での特産品開発・販売」

- 販売しているものが、長島の特産品なのか疑問である。
- 町民でも物産館に一回も行ったことがない人が多い。
- 物産館建設の前に、地元特産品販売について協議するべきであった。
- 他の物産館での販売体制を参考にすれば良かったのではない。

- 衛生管理の徹底が必要である。（鮮魚などの臭いがある。特に冬場は暖房の影響で臭いがこもっている）
- サービス不足が目立つ。（閉店時間が18時なので仕事が終わってから買い物ができない）
- 商品の管理が悪い。商品の取り扱いに不備が見受けられる。（賞味期限の過ぎたものなど）
- 食事サービスのブースがない。（弁当を買っても食べる場所が少ない）
- 物産館の食べ物と飲食店の料理は違うものであり、地元業者に遠慮しては物産館の発展はない。
- 物産館駐車場でイベントの催物をしたらどうか。（地元特産品の販売やフリーマーケット等）PRが少ないと思われる。
- トイレの場所が分かりづらいので、表示が必要である。
- 試食販売などとして物産館の

- 活性化につなげたらどうか。（販売のやり方を研究すべきである）
- 野菜の種類が少ない。生産者が売れ残った品物を引き取るのではなく、物産館で買い上げ、残った品物を加工して販売できないか。（魚などは焼くとか煮るとかして販売できないか）
- 商品を売るために保健所の許可が必要なため、加工施設が必要である。町民個人が町の特産品商品として売り出せる方法を考えてほしい。（漬物など）
- 町外から来たお客さんが、地元に来たので安いかと思っただけで、とても高いとの評判である。
- 高齢者も巡回バスで物産館に行けるようにしたらどうか。
- 当初の出展希望者は大人数であったが、実際の生産者（出展者）は少ない。物産館での地元特産品が少ないのも生産者が少ないからではないか。
- 陳列方法も「地元コーナー」を設けて販売できる体制をお願いしたい。

